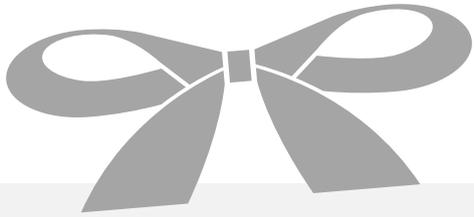


ディケンズと ヴィクトリア朝の クリスマス



チャールズ・ディケンズの『クリスマス・キャロル』は最初に発表された頃から絶大な人気を博し、今でもイギリスやアメリカのクリスマスには何らかの形で舞台やテレビに登場する。ディケンズはクリスマスというイベントを「発明」したとまで言われることもあるほどだ。ディケンズとヴィクトリア朝のクリスマスに目を向けることによって、ヴィクトリア朝の社会や文化のあり方を見ていきたい。

【講師】

新井潤美 (あらい・めぐみ)

東京都生まれ。英文学、比較文学者。東京大学大学院人文社会系研究科教授。著書に『魅惑のヴィクトリア朝——アリスとホームズの英国文化』（NHK 出版）、『「英国紳士」の生態学：ことばから暮らしまで』（講談社）、『ノブレス・オブリージュ：イギリスの上流階級』（白水社）、『英語の階級——執事は「上流の英語」を話すのか？』（講談社）などがある。

日時：2022年11月23日(水・祝)
16:00~18:00

会場：座・高円寺 (けいこ場(地下3階))

参加費：500円(会員・学生=無料) *当日清算

予約・問合せ：aictjapan@gmail.com

*予約優先。件名に「思考の種まき講座・11月」とご記入の上、お名前・人数・日中のご連絡先 TEL を明記してください。

主催：NPO 法人劇場創造ネットワーク/座・高円寺
協力：国際演劇評論家協会[AICT]日本センター

<http://aict-iatc.jp/>

*当日は、感染症予防対策にご協力ください。

★座・高円寺で上演！

劇団昴『クリスマス・キャロル』

12月1日(木)~11日(日)

脚色：ジョン・モーティマー

翻訳：石川麻衣

台本・演出：菊池准(演劇企画 JOKO)

*イギリスでは毎年クリスマスの時期にいくつもの『クリスマス・キャロル』がさまざまな解釈で上演されています。



QRコードからもお申し込みいただけます↓

思考の種まき講座とは……演劇は何をみているのだろうか？ 新しい戯曲が生まれる理由、いにしへの戯曲が今も上演される理由。今自分が抱えている疑問に対する問いがここにある。演劇から世界を考える講座です。

